

第3章 成田市商工業のポテンシャルと課題

第1節 成田市商工業のポテンシャル

本市は、成田国際空港を擁する「空の港町」、千葉北部中央の中核都市として流通・集積機能を育んできました。今後の環境変化の中でその資質を見据え、商工業振興に向けての本市のポテンシャルを整理すると、次のことが挙げられます。

【地域特性と立地優位性】

●自然・歴史・先端性が共存する多様な地域環境

本市は、首都から数十キロ圏に位置し、歴史的に広域の参詣地、北総の中核的な都市として発展してきました。成田山新勝寺が県内有数の観光拠点となっているほか、その他の歴史的・文化資源、利根川や印旛沼、北総台地が育む豊かな自然、美しい田園環境、国際空港を擁する先端的な都市環境など、多様な資源に恵まれています。

地に根ざした歴史特性と豊かな地域環境は、本市ならではのかけがえのない資産であり、多様な産業を育む土壌として将来的に一層価値を発揮していくことが考えられます。

●成田国際空港の立地と整備された交通・物流ネットワーク

成田国際空港は、日本を代表する空の玄関口、国際的な交流拠点として日本及び首都圏の経済を支える重要な位置づけにあります。

空港を中心とした空陸両面の交通・物流ネットワークは、本市及び広域の重要な交流基盤であるとともに、運輸関連業をはじめ、本市の産業を支える重要なインフラともなり、空港関連産業、運輸・物流産業等の集積にもつながっています。

現在、空港機能の拡充、圏央道や北千葉道路の整備が進められ、平成32年の東京オリンピック開催に向けて、本市を取り囲む交通の利便性は、さらに高まっていくことが見込まれます。

●広い市域、安定した地盤

本市の広い市域は、緑と水に恵まれた環境資源であり、整備された都市・交通インフラ、労働力人口の規模などとともに、産業立地に有利な資質となっています。

市内には4か所の工業団地がありますが、空港との近接性、比較的有利な地価水準などから既に分譲が完了しています。そのため、本市は、平成25年10月に「市街化調整区域における土地利用方針及び地区計画運用基準」を運用開始し、空港周辺の柔軟な土地利用の促進などの施策展開を図ることで、さらなる企業立地の可能性が広がります。

【社会経済の活力】

●定住人口・交流人口の集積～拡大する消費者需要～

本市は空港の発展とともに、居住・就業環境の向上に伴い、現在も人口の流入が続いています。比較的年齢構成が若いうえ、生産年齢人口の割合が国や県の平均と比べても高く、働き盛り・子育て期にある市民が多い都市として、労働力人口に恵まれています。定住人口の増加は今後もしばらく続き、生活に伴う消費活動が拡大していくことが予想されます。

本市の小売業は、大型ショッピングモールや成田山新勝寺周辺の表参道を核に 17 市町に及ぶ広い商圈を形成し、地元購買率、商圈内吸引力ともに県内最高水準となっており、北総地域における商業中心都市としての役割を担っています。また、成田山新勝寺は、東京ディズニーランドに次ぐ県内第 2 位の観光入込客数を誇る観光拠点となっています。平成 32 年の東京オリンピックに向け、国や首都圏、本市においてはインバウンド政策、クールジャパン政策などによる消費拡大策を積極化しています。本市では、東京オリンピックに先駆けて、平成 30 年には成田山新勝寺開基 1080 年祭が控えており、集客力を拡充していくチャンスが拓けています。

●国際物流都市としての産業集積と多様な産業の広がり

日本一の貨物取扱量を誇る成田国際空港を擁し、運輸関連産業が本市産業の主力となり、本市の国際物流都市としての資質を高めています。また、空港自体が様々な業務や消費の源となって、市内の多くの事業所が直接・間接に空港と関わり、「空港産業クラスター」ともいうべき集積を形成しています。専門的なサービスから機内食製造業、空港内での商品販売などの展開は、古くから本市に育まれた旅客向けの商いの発展形であるということもできます。今後は、新たな産業集積と、古くから培われた商都としての資質を結びつけ、本市ならではの総合交流産業へと高めていくことが期待されます。

また、本市には、化学工業、食品製造業を中心とする工業、参道や中心市街地、郊外への商業集積、空港関連機能から派生する様々なサービス業、住民ニーズに応えながら成長する医療・福祉サービスなど、新旧の多様な事業が展開しています。最近では、地元農産物の直売所開設や成田ブランド商品の開発など、地に根ざした産業づくりが進みつつあり、医療系大学の立地予定がみられるなど、産業の多様性はさらに拡大しつつあります。

今後とも、「空港産業クラスター」の一層の高度化、地域特性を活かした様々な産業の振興、生活や産業を支援する様々な産業の育成と創造、これらの産業を複合化・連携化していくことによる新たな可能性の広がりなどが期待できます。

本市は、空港の立地やこれまでの産業発展により財政力に恵まれた都市となっています。事業者には、今後に向けての前向きな事業展開意欲があり、市民には旺盛な生産力があります。本市は、これらを資本に、来るべき高齢化・人口減少社会化に備え、都市と産業の活力を維持・創造していくべき時を迎えているともいえます。

第2節 商工業振興の課題

本市及び本市の商工業は、将来に向けての成長ポテンシャルとともに、解決していくべき問題も抱えています。それは、主に次のようなものです。

○中心市街地、既存商店街の空洞化

既存の商店街から沿道型への商業の重心移動などにより、既存の商業は継続が難しくなっています。これに伴い、地域の買い物環境の利便性低下、地域社会の活力低下も進み、高齢者にとっての暮らしやすさが減退してきています。

○流動性が高く、不安定な就業環境

本市は、定住人口・交流人口の集積がみられますが、住民の転出入も多いなど流動性が高い社会となっています。少子高齢化が進む社会の中で、安心して暮らし、働き続けられる都市づくりが求められます。

○地域間・業種間の不均衡

本市の社会経済は、全体としては成長基調にありますが、立地条件をはじめ、事業をめぐる条件は、地域間、業種間で異なっています。これらに対応し、市域全体のバランスある発展、立地条件等の格差解消を図っていくことが必要です。

○産業魅力の見えにくさ

本市には、空港や成田山観光をはじめとする本市ならではの特性、歴史と先端性、都市と自然など多様な資質がありますが、それらを備えた成田市としての魅力、成田市産業の魅力は未だに見えにくい状況にあります。本市商工業の市場価値を高めていくためにも、成田市としての産業のイメージ形成が急がれます。

○企業経営上の課題の多様化

アジア圏の成長、広域交通の充実などは、本市の事業所に発展可能性とともに、競争条件の厳しさももたらしています。各事業所は、低価格競争、各種コストの高騰、需要の不安定化、従業員の高齢化や人材確保の必要性をはじめ、様々な課題を抱えながら経営努力を続けています。社会経済の目まぐるしい変化の中で、企業経営をめぐる問題は、ますます多様化、複合化していくことも予想され、個々の事業者のみならず、地域全体として対応力を高めていくことが必要となってきています。

○事業者と市民の意識ギャップ

「国際空港のポテンシャルを活かした産業の誘致・育成」は、事業者・市民共通の期待ですが、両者の間には視点の違いがみられます。事業者は物流機能の充実、国内外の観光客誘致など積極的な産業振興策を望み、市民は生活支援ニーズへの対応、雇用の安定、既存観光資源や地域資源の活用に期待しています。本市の商工業は、市民のニーズとともに、首都圏をはじめ広域のニーズに対応していくべき性格を備えています。

市民の市内購買率は、高い水準にありますが、沿道のショッピングセンターでの買い物を志向し、地元商店街への期待は必ずしも高くありません。市内商工業の振興、活力ある地域社会づくり、市内外のニーズに応える産業振興、安定した雇用環境を目指すためには、事業者と市民が、それぞれの立場を理解し、将来に向けてともに歩んでいけるような環境づくりが必要といえます。

本市の商工業は、将来に向けて、以上のような問題に対応しながら、成長ポテンシャルを発揮していく必要があります。

本市の商工業振興の課題は、次のように整理されます。

市全体の暮らしやすさ、持続的な発展につながる「成田市ならではの産業」の育成

- 要点・歴史に培われた「地域特性」と空港のある「立地優位性」の活用
- ・広域のニーズと住民ニーズへの対応、事業者・市民・市のつながりの強化
- ・東京オリンピックを機会と捉えた戦略的な取り組み

○都市としての魅力づくり、市全体の活性化を実現する産業振興

北総の中核的な都市として、中心市街地の魅力を再興するとともに、一部地域でみられる商店街の空洞化、買い物環境の悪化などに対応し、市内のどこに住んでも安心と利便性、活力が感じられるような環境づくりと、子育て世代や高齢者の暮らしやすさを支え、健康や教育文化ニーズ、環境にやさしいライフスタイルに応える産業の育成が重要性を増しています。

広域から人が集い、働く都市として、周辺の住民に愛される都市、働きやすい都市をつくっていくことも重要です。中核都市にふさわしい快適で魅力的なまちを整備していくとともに、首都圏のライフスタイルを支える質の高い商品やサービスを提供すること、そして、これを通じて、本市の産業全体の高付加価値化につなげていくことが重要です。

そこでは、流動性の高い社会の中で、市民がふるさと意識を育み、ともに地域経済の活性化を目指していけるような関係づくりとともに、空き店舗の有効活用、市民が主体となるビジネスの育成など、新たな視点の投入も求められます。

○国際空港のある環境を積極的に活かした、本市ならではの産業振興

本市には、成田国際空港の立地や、空港周辺の道路交通網など、整備された都市インフラがありますが、これらを十分に活かしている地域や企業は限られており、恵まれた立地条件を全市的に活かしていくことが課題となっています。また、高速交通化や情報化の進展などにより、企業活動をめぐる国内外での競争は激化しつつあり、地域産業の競争力をいかに強化していくかが大きな課題となっています。

本市が歴史の中で培ってきた集客・流通都市としての蓄積と空港関連産業の集積を最大限に活かして「空港産業クラスター」の高度化を目指し、首都圏、全国、世界の物流に貢献する「頭脳型物流産業」の構築と地域産業全体の振興に貢献する産業間連携の強化などを進めることが期待されます。

また、本市は、食品製造やものづくり産業を通じて首都圏のライフスタイルを支えてきました。今後とも、多くの人々が集い、行き交い、働くまちとしての特性を活かし、市内外の消費者に訴求する商品づくり、市や商品のPRに力を入れていく必要があります。そ

のためには、一般の消費者からは見えにくい物流や工業を紹介するなど、全体として魅力的な産業のまちづくりに力を入れることも重要です。

○歴史や自然環境など、本市ならではの地域特性を活かした産業振興

本市は、関東有数の集客力を誇る成田山新勝寺を擁するほか、その他の歴史文化資源や、印旛沼・利根川などの豊かな緑と水の環境を有し、都市と田園、自然の多様な資源性に優れています。しかし、それらの活用は必ずしも十分ではなく、成田国際空港を利用する国内外の旅行者が市内を回遊する機会も限られていました。

これに対して、現在、「運氣上昇のまち」「うなりくん」などのPRを推進するとともに、空港利用者のトランジットツアー、ラストナイトツアーの促進が図られています。今後は、これらを一層進めるとともに、質の高い観光サービス業の育成、まち全体の景観の魅力化、地域や事業者による受け入れ体制の整備などを進め、国際的な観光地としての資質を高めていく必要があります。

観光には、産業観光、産業体験や、食、土産などを通じて地域の産業全体を活性化していく効果があります。市や経済団体、各地域では、地産地消、6次産業化^{※1}などに力を入れ、観光との結びつきも強めつつありますが、今後とも地域の魅力をさらに発掘し、地域に根ざした観光と地域産業の振興を一層積極的に進めていくことが求められます。

地域産業の振興に際しては、本市に集積している物流機能を積極的に市内で利用するなど、本市ならではの特性を活かした地域産業群を形成していくことが重要です。

○都市経済の持続的発展を支える商工業振興体制の確立

本市の商工業は、様々な経営課題を抱えながら、本市のポテンシャルを有効に生かし、自らの発展と地域社会の活性化に貢献していくべき立場にあります。本市の事業者は、将来に向けて前向きに事業展開していく姿勢を持っていますが、経営環境は厳しく、多様な課題を抱えています。経営環境の厳しさは、空港や大手企業にとっても同様です。これまでは「成田空港あつての成田市」でしたが、今後は「成田市あつての成田空港」といった互恵的な関係の下でともに持続可能な経営をしていくことが期待されます。市内の地域間、業種間、事業者と市民、市の関係においても同様のことがいえます。

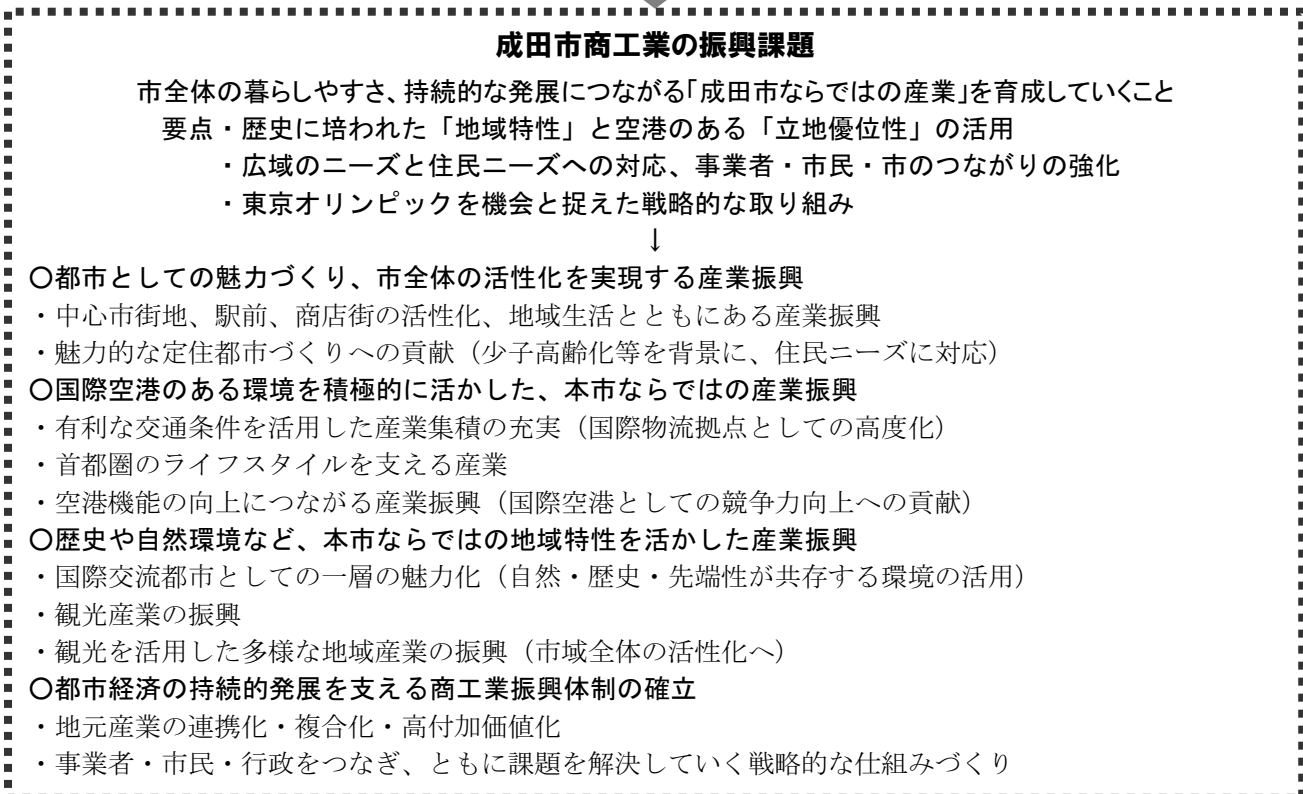
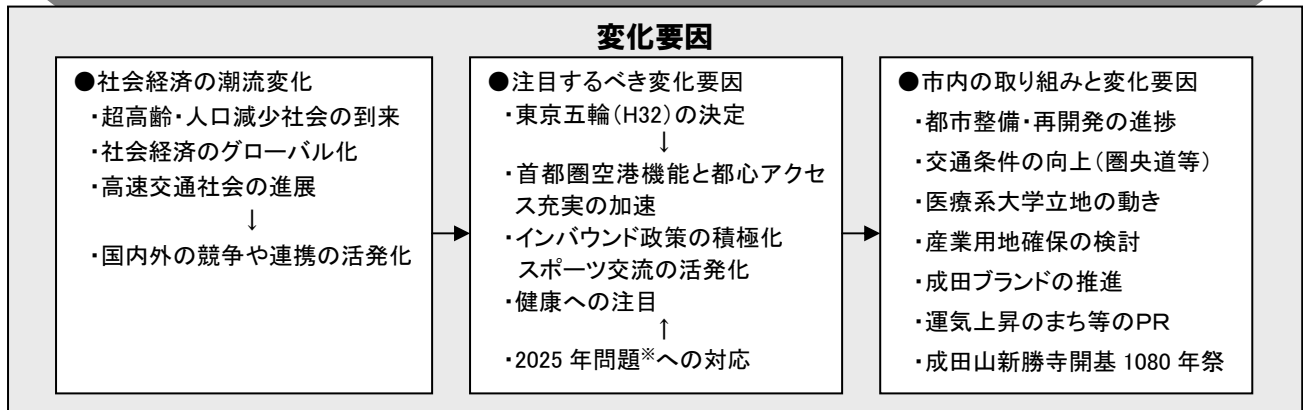
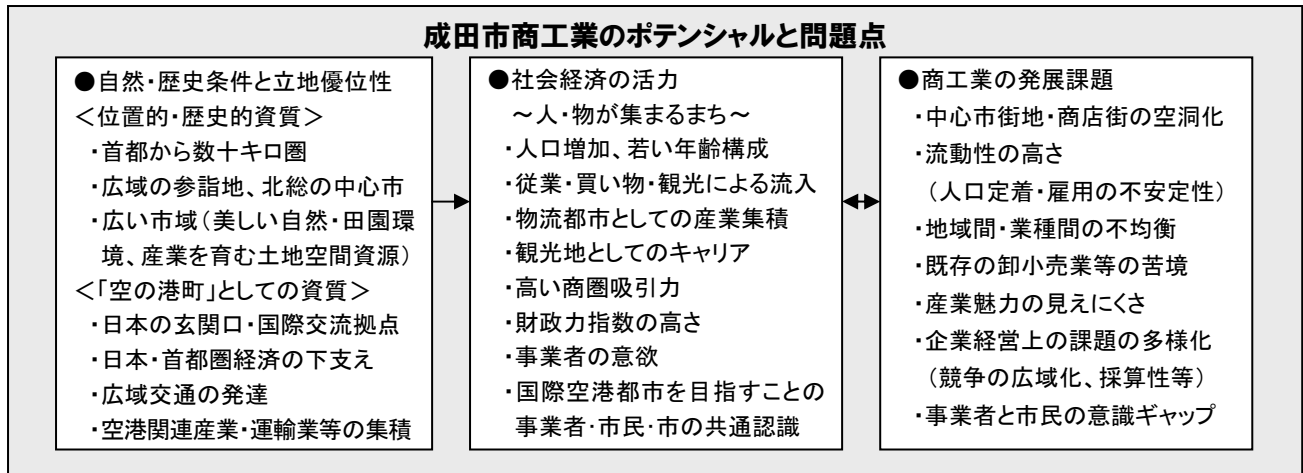
今後は、足腰の強い地域経済を内発的に構築していくため、事業者、関係団体、市民、行政を一体とする産業振興体制を確立し、個々の事業者の経営支援と、地域産業全体のバランスある振興を図っていく必要があります。

本市では、「成田空港と成田山新勝寺は知っていても、成田というまちは具体的にイメージできない」といった状況に対して、成田ブランドの推進に取り組みはじめています。そこでは、既存の各種イベントや祭り、フィルムコミッション^{※2}活動など、公民によるあらゆる取り組みを積極的に展開していくことが重要です。

^{※1}6次産業化…農業・水産業(第1次産業)が、生産だけでなく、食品加工(第2次産業)や流通、販売(第3次産業)等にまで踏み込んでいくこと。

^{※2}フィルムコミッション…映画、テレビドラマ、CMなどのロケーション撮影を誘致し、スムーズに進めるための非営利公的機関。

◆成田市における商工業振興の課題



※2025 年問題…団塊の世代が後期高齢者になることで生じる、社会保障費急増等の様々な問題。